

2024. 8. 01

歴史民俗資料館だより No.155

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

くんち資料展

会 期 8月22日(木)～10月13日(日)

展示品 くんち衣装、踊町の写真(傘鉾・演し物)、手ぬぐいなど 約80点



紺屋町 川船船頭衣装

昭和8(1933)年 若山 静枝氏寄贈

はじめに

寛永11(1634)年に長崎諏訪神社の秋の大祭「くんち」が始まり、今年で390年となります。

長年の間に、江戸時代の大火災、昭和の戦災や大水害、そして町名変更などをへて、時代と共に7年に1度出演する踊町の数や組合せ、演(だ)し物の多くが変化してきました。

特に、今年は、一定コロナ感染も収束したことから、今回の企画展は、「長崎くんち」の魅力を改めて広く周知するために、これまでに展示されてきた各踊町の衣装や演し物の写真等を中心に、「長崎くんち」を紹介する内容といたしました。

今回の展示に際しまして、貴重な資料等をご寄贈いただいた金井田佳子様をはじめ、各踊町の関係各位に深く御礼申し上げます。



船大工町くんち先曳衣装

昭和10(1935)年 金井田佳子氏寄贈

くんちの語源

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日のくにちが「くんち」になったと言われていいます。

諏訪神社では寛永3(1626)年はじめて神楽を奏し湯立神事が行なわれましたが、大祭の最初は寛永11(1634)年でした。この時の社地は、まだ現在の玉園山に移る前の円山(現、松ノ森神社)で、(慶安元年・1648・遷宮)9月7日、遊女高尾・音羽の両人が神前に謡曲小舞を奉納。午後、神輿が御旅所に渡御され、8日が大祭で、御旅所で湯立神事が執行され、9日無事神輿は還御されました。



愛宕焼 花器(中原 仁市作 長崎土壺)

大正時代(1912~1925) 野々村 俊明氏寄贈

くんち踊町の龍踊等の演し物がレリーフされています。



清水崑筆 おくんちかっぱ屏風
昭和 45 (1970) 年頃 清水梢太郎氏寄贈



羽織型くんち手拭張り混屏風
昭和 60 (1985) 年頃 吉村 愛子氏寄贈



江戸町 兵式教練遊軍士官衣装
大正 2 (1913) 年 川添 弘之氏寄贈



勝山町大薩摩指物図
弘化 2 (1845) 年 野川 美恵子氏寄贈



呈上・御札札



勝山町大薩摩踊使用太鼓 (くんち資料最古資料)
延宝伍 (1677) 年 野川 雅生氏寄贈